

グレーゾーンの  
子でも大丈夫！

音楽教室の先生専用  
3ヶ月で学ぶ

個性別に指導法がわかる  
カラフル  
コミュニケーション

## もくじ

### 第5章 イマジネーションサポート

頑張る気力・目標の与え方

言うことを聞かない子をコントロールするマル秘テクニック

伝えるテクニック

### 第6章 保護者の信頼を得る教室の作り方

保護者と先生を結ぶコミュニケーション 法

家庭学習の進め方

第5章

# イマジネーション サポート

全無断転載禁止

## 頑張る気力・目標の与え方

---

✔️ スモールステップで進めましょう。

✔️ 苦勞無く出来ることがどの程度なのか考えます。

楽にできる事を7割と少し努力の必要がある事を3割。

この位のバランスで普段のレッスンも、発表会などの長期目標も組み立てる。

できるという達成感で、頑張る気力をキープします。

✔️ かなり先の目標を達成する方法は、目標から今しなければならぬ事を、小さく分割する。

小さな目標を、一つずつすべき事とにして、与えていきます。

✔️ 長期的な目標があっても、途中の変更可と考えフレキシブルに。

# 言うことを聞かない子をコントロールするマル秘テクニック

---

## 沈黙・静けさが注意を引きつけるコツ

こちらの指示が聞けなくなってきたら、座り動かない。話さない。  
一言『待ちます』と言っても良い。問題行動に意味づけをしないようにします。

## 指示は短い言葉で簡潔に

禁止という言い回しは避け、先生は〇〇したいと考えています。一緒にやりたいと考えています。  
この状況では、このままレッスンを続ける事ができません。などアイメッセージで！

## よいこと、できた時、間違えた事のジャッジはすぐに

すごい！ピンポン！  
よくないこと ブブーッ！            など、すぐその場で

## 気持ちの昂りはほどほどに

楽しい気分にしたいたところですが、あまりにハイテンションにしてしまうと  
落ち着けなくなってしまう子は多いもの。集中する作業や、遊びを効果的に使い  
静かにさせるというより、集中して遊び落ち着く方向へ促す。

## 伝えるテクニック

✔ 「〇〇します。」 「〇〇です。」 「〇〇しません。」 と言い切る形。

✔ 2語文から始める。

✕ 「カバンから本を出して、用意しておいてね。待っていてね。」

◎ 「カバンから本を出しましょう。」

「カバンをかけてね。」

「この椅子に座って〇分まで待っていてください」

✔ 最大どのくらい弾くのか。具体的な数を初めに伝えることで、頑張れる。

◎ 「〇回弾きます。」 「〇分弾きます。」

◎ 「ここから、ここまで〇回弾きます。難しいところなので、練習する必要があります。」

✕ 「もう一度弾いて」

✔ 決定事項である様に伝える。

どちらでも良いという指示では、自分のこだわりを変更することができない。

曲の練習法・教室で守ってもらいたい決まりなど、書面にすると良い。

シンプルな絵で示すのも効果的。

✔ 選択肢を並べて選ばせる。気持ちを聞かせてもらう。

✔理解できていない時は、同じ言葉を繰り返し何度も言う。

理解できるようにとの思いから、色々な言い回しで伝えがちですが、全く同じ言葉で。1度で聞き取り、理解するために時間がかかる場合があるからです。

✔何に注意するのかを一言で伝える。

音の変更なのか。長さの変更なのか。記号の意味についてなのか。

強い弱い、ゆっくりなど形にしにくい事は、イメージしやすい形に例えて提案する。

✔決まったミスは何度も繰り返す場合は原因を探る事。

「何度かチャレンジするうちに、自分で気づき間違わない手立てを立てる」ということが非常に苦手です。できたとしても、人の何倍もの時間と労力を使います。

なぜそうなるのか。だから変更する必要がある。変更したものを何度か練習しないとすぐには変更する事は難しい。

✔真似をして見せてあげる。

どのように見えるのか、イメージしにくいので

こんな風に聞こえる。このように見えるなど、動画にとったり、先生が真似をして再現する。

それを見てどう感じるかで、学習の内容ができてくる。

第6章

# 保護者の信頼を得る 教室の作り方

# 【保護者と先生を結ぶコミュニケーション法】

こんな経験を日頃なさっているのです。

---

毎日歯を食いしばって、兄妹の世話もしながら必死で子育てしていました。そうしているうちに、長男も成長すれば少しは落ち着くだろうと思っていたのです。

ところが、小学校に入学し、長男は落ち着くどころか、余計に問題行動が増えてしまいました。ランドセルの中身は空っぽ、登下校ではケンカばかり、漢字の書き取りは投げ出す、クラスのゲームに参加できず教室を飛び出してしまう……担任の先生からも毎日のように電話がかかってきました。一生懸命やっているつもりなのに、「なんで私だけ、こんなにうまくいかないんだろう」と、いつも思っていました。

---

このように考えてみてはどうですかと、提案しています。

---

「頑張っているのにできない」姿を見ると、親としてはなんとかしてあげたいという気持ちになります。そんなときには、「ものの工夫」をして、その子に合った道具を選んだり、改造して使いやすくすれば、苦手な作業を補って取り組めたり、最後まで集中しやすくなります。

まずは「子どもがどんな作業を苦手としているか」に目を向けます。一見、やる気がないとか、態度が悪いとか、ふざけている、というように見えても、うまくいかずに、ただ、どうしていいかわからないだけの場合も多いのです。

子どものやる気や態度に振り回されずに、身体の使い方や脳の情報処理など「できないのは、身体のどこかに苦手な作業があるかもしれない」と、こちらの見方を変えてみます。

---

## 配慮のお申し出があった場合

---

まず教室に来ていただく前に、お子さんについての心配事や、得意な事、好きな事を聞いて差し上げる時間を作ります。熱心に聞くことで、レッスンのヒントになることが多いものです。

注意点は、**お子さんの前で、得意・不得意の話はしない事**。よく聞いていますので注意が必要です。

お母様と一緒に協力しながら進めたいと考えている事、楽しくレッスンを継続できる様に頑張りたいと考えていることをきちんと伝えます。

大変緊張して連絡を下さることが多いので、私は本題に入る前に

「お電話をかけていただき、ありがとうございます。」

「ご連絡をいただけて嬉しいです。」

「断られるのでは？と心配だったのではありませんか。」

という風に、**お気持ちわかっていますよ・・・というメッセージを伝えています。**

レッスンが始まってからは、このままで大丈夫？この先できる様になるの？と何度もお母さんが不安になる事が出てきます。

少し歳が大きな子の育ちの事例をお話しして、**育つ先に明るい未来があることをイメージさせてあげましょう。**

## なんの申告もない子だけど・

初めて教室に来る時は、多少の緊張があり本当のお子さんの姿がわからないことがあります。しばらくして、慣れてきた頃に問題が現れてくることが多い様です。

少し緊張が強いのかな？という印象だったのが新しい事に進むことができなくなってきて、楽しいレッスンができなくなってきたり。素直に指示を聞いてくれなくなり、ふざける、弾かないということが増えてきたり。

この状態は、ピアノ以外でも困った事になっていることがあると考えられます。日頃の保護者の方の大変さが想像できます。

まずは、**お願いしたいこと**をはっきりとお母様にお伝えし、**それ以外の事は先生が導いていくので安心してもらう様に毅然とお話をしています。**

そして、お友達と競い合う様な方向にフォーカスしない様に日頃の声かけに気をつけます。

成長していく過程で、全く問題行動が気にならなくなっていたという子が多くいます。小さな頃は、子ども自身が抱える不安をどの様に考えていくのかがわからなくて問題行動につながっていたのでしょう。**周りの大人が理解して、最適な支援をしていくと自分でコントロールができる様に育っていきます。**



ピアノ教室で教え、練習すべきことをご家庭にお願いしない。  
新しい曲の譜読みをご家庭に頼まない。  
家庭の練習を、お母様にコントロールしてもらわなくてもできる様に。

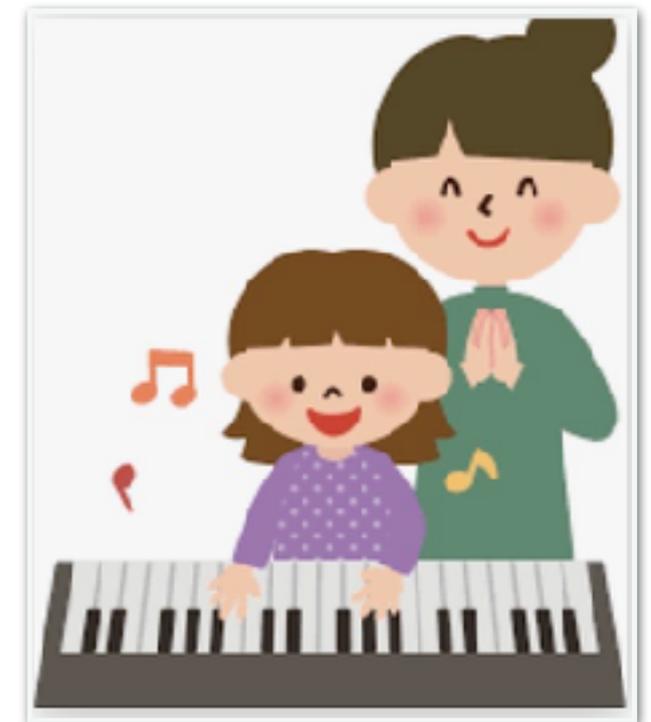


「できていなくても、お母様ができるようにして行かなくちゃと思わないでくださいね。ピアノの事はお母様がやらせなくて大丈夫です。ご安心ください。」

例えば先生の問いに返事をしなかったり、あまりにお行儀が悪かったりすると、同席するお母様はどうすべきか、実は悩んでいるそうです。



「教室の中の出来事は、お母様から見ても見苦しいことがあっても、先生が指摘しますから、大丈夫ですよ。」



## 【家庭学習の進め方】

レッスンを始めたばかりは、家庭でピアノを弾く時間を作る習慣付けを目的に課題を出します。

**何をどの位するのかを具体的に伝えることが大切です。**

家庭の練習では、

- ・ お母様が教えなくてはいけない状態にしないこと。
- ・ 先生との約束の練習が全部できたかどうかわかりやすくすること。  
「全部できた・頑張ったね」という線引きができます。

**お家練習のイメージが大変な事だとインプットされない様に注意してもらいます。**

- ・ 練習し始めると、ダメ出しをされてなかなか終わられない。
- ・ 曲が難しそう・・・

そう思うと、練習に取り掛かることがとても気の重いものになってしまいます。

「サクッ」と始めたら、「ササッ」と終わって、お母さんに「練習できたわね！」と認めてもらえる。この様な流れにしてもらいます。

がつ にち ( ) ようび

**みぎての本 ⑤ドレミで歌う**  
**3回ひく**

**ひだりての本 ③ドレミで歌う**  
**3回ひく**

**かっこう 片手で8小節**  
**両方一緒に弾かない**

つぎのレッスンびは・・・

まいにち れんしゅうできたかな? 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土  
(できたひには○をつけましょう)

あうちのかたから

月 日 ( )

費 領収いたしました。



場合によっては  
練習する時間で目標を提示しても  
良いと思います。その場合も、本の  
名前ごとに、○分間というわかりやすい  
具体的な指示を心がける。

練習すべき全体量が  
はっきりしている

練習が大変そう・・・  
と思わない

弾けそう！楽にできるだろうと  
イメージしている

練習にさっと  
取り掛かれる

繰り返すことができるから  
上達する。

認めてもらえるから嬉しい

